

令和3年度 AI オンデマンド乗合サービス実証実験の結果等について

令和3年度 ラストマイル自動運転実証実験（2回目）の結果等について

1 実証実験概要

タクシー車両を用いた乗合実証実験を実施。

- (1) 実施期間 令和3年6月14日（月）～令和4年3月31日（木）  
※土日祝日、12月29日～1月3日を除く
- (2) 運行時間 午前8時30分～午後2時
- (3) 対象者 誰でも利用可能
- (4) 利用料金 ・初乗400円/人、最大料金1,000円  
・通常のタクシー料金の約5割引き  
・協賛事業者での乗降は100円引き
- (5) 利用方法 専用サイト又は電話で呼出
- (6) 変更点 神屋地区周辺の郊外団地地区でも試験運行（2・3月）



2 実証実験結果（最終）

(1) 利用者数等（3月31日時点）

ニュータウン地区

	配車数(回)	乗車人数(人)	1日あたり乗車数(人)	利用者数(人)	乗合率(%) (乗車人数/配車数)	運行日数(日)
令和3年度	1849	2015	10.2	174 ※重複除く	109	197

(参考)

令和2年度	386	435	4.5	81	112	96
-------	-----	-----	-----	----	-----	----

- ・1日あたりの平均乗車数 10.2人/日
- ・1人あたりの平均支払金額 588円/人
- ・1日あたりの平均配車数 9.4回/日

神屋地区

	配車数(回)	乗車人数(人)	1日あたり乗車数(人)	利用者数(人)	乗合率(%) (乗車人数/配車数)	運行日数(日)
令和3年度	39	42	1.0	12 ※重複除く	108	44

- ・1日あたりの平均乗車数 1.0人/日
- ・1人あたりの平均支払金額 487円/人
- ・1日あたりの平均配車数 0.9回/日

(2) 利用動向

- ・目的地、出発地ともサンマルシェ、名古屋徳洲会総合病院、東海記念病院、なかひがし整形外科皮膚科、むらた鍼灸院が上位…買い物・通院利用が多い

3 今後の見通し

(1) R3年度実験を終えて

- ・長期間運行により徐々に地域に定着
- ・運賃収入だけの独自採算は厳しい
- ・既存事業者との住み分けや、乗合率の向上が課題。

(2) R4年度の方角性

- ・令和4年4月1日以降も継続して事業を実施（試験運行）→地域への定着を目指す
- ・より施設送迎的なサービスへの転換も視野に入れながら域内事業者（病院、商業等）と、運行費負担も含めたさらに強い連携を検討
- ・地域を巻き込んだ運営のスキームを模索



1 実証実験概要

ゆっくりカートを用いた実証実験を実施。

- (1) 実験期間 令和4年1月24日（月）～3月18日（金）
- (2) 運行時間 午前9時～午後4時（正午～午後1時を除く）
- (3) 対象者 石尾台周辺にお住まいの方
- (4) 利用料金 無料
- (5) 利用方法 ・ゆっくりカート…専用電話番号に電話  
・ミニバスは乗降しやすさの面で見送り。
- (6) 変更点 ・ゆっくりカート…事前予約なしでも乗車可能に。  
・並行して貨客混載事業の実証実験も実施。

2 実証実験結果

(1) 利用者数等

		期間(日)	サービス提供回数(回)	ユニークユーザー数(人)	
R4.1-3	ゆっくりカート実証実験	旅客	45	83※	30
		貨物	39	40	29
(参考)	R3.6-8	ゆっくりカート実証実験	42	140	38
	R3.6-8	ゆっくりミニバス実証実験	42	223	—
	R2.11	ゆっくり自動運転実証実験	18	70	50
	R2.2	ゆっくり自動運転実証実験	10	39	37
	R1.11	ゆっくりカート実証実験（手動）	14	108	73

※2/18（金）に石尾台小学校で体験授業を実施、その後2/23（水/祝）に小学生と保護者向けに体験乗車会を実施、15組の乗車があった。

3 今後の見通し

・石尾台の新たな移動サービス検討会

- 目的 … 「地域にとって必要な移動サービスの検討」  
「地域・行政・事業者で担う役割の整理」  
「移動サービスの運営組織（NPO）の設立」
- 構成 … 町内会・自治会、地区社会福祉協議会、老人クラブ、民生委員等
- 会議 … 令和2年11月以降、月1～2回程度開催

(1) R3年度の活動

- ・地域検討会内で地元・行政・事業者間の役割分担やランニングスキームを整理
- ・ゴルフカートによる台内のラストマイル移動サービスを担う、地元主体の運営組織（NPO法人）の設立を決定

(2) R4年度以降の方角性

- ・運営組織となるNPO法人の設立、手動による運行開始
- ・町内会等の協力得ながら適宜ランニングスキームを更新していく
- ・技術的実証実験も適宜行い将来的に自動運転による運行を目指す。

